

「外国にルーツを持つ子どもへの日本語指導者養成講座 Part 13」

実施報告書

1. 開催日：2021年12月24日（金）10:00-16:00
2. 場所：ピアザ淡海2階 207会議室（大津市におの浜1丁目1-20）
3. 実施主体：公益財団法人 滋賀県国際協会
4. 参加者： 45名（加配教員、日本語講師、ボランティア日本語指導者等）
内訳：滋賀県教育委員会連携研修*参加者 26名
一般参加者 19名
*連携研修：外国人児童生徒教育担当者は一校連絡協議会連携研修
5. 後援：滋賀県、滋賀県教育委員会
6. 講師：京都教育大学 教授 浜田 麻里 さん
7. テーマ：「外国にルーツを持つ児童生徒を学習参加につなげる日本語指導」
～子どもが力をつけていくために～

8. プログラム

- 10:00-10:05 あいさつ/ オリエンテーション
10:05-12:00 講義
12:00-13:00 昼休憩
13:00-16:00 講義とグループ別ワークショップ

9. 講座概要



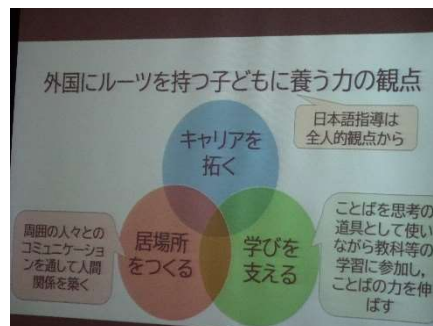
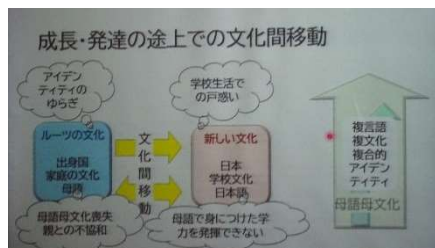
講師：浜田教授

(1) 日本語指導が必要な子どもにどのような力をつけるのか

言葉の習得とはどういうことか、外国ルーツの子どもにとって、学校でどのようなことを大切にするべきか、子どもの成長を支えていくためにどのような支援が必要なのかなどを具体的な事例をあげて説明があった。

(2) 子どもの文化間移動を理解する

外国ルーツの子どもたちはサードカルチャーキッズ（第三文化の子どもたち）であること。成長途中における文化間移動の



発達への影響や第二言語の習得と母語との関係性について。話す、読む、聞く、書くの4技能の習得とその指導について。それらをふまえて学校を

どのような場所にするべきか、子どもの成長とキャリア形成を見通した指導とはどのようなものなのか。参加者同士のワークショップも交えての午前中の充実した時間となりました。

(3) 在籍学級での学習環境づくり

午後は、グループ別に「外国にルーツをもつ子どもに在籍学級で力を養うにはどうすればよいか」、「在籍学級での学習環境づくりの工夫を考えてみる」というワークショップに取り組みました。参加者同士での情報交換も進み、活発に意見が交わされていました。

何が授業参加の壁になるのか、反対に授業参加を促す5つの支援について、浜田教授から実際に取り組まれた学校現場の事例を交えて説明があり、大変参考になりました。

(4) 学習参加につなげる日本語指導活動

最後は、日本語習得の課程別によるそのプログラムの立て方やJSLカリキュラムについて学びました。



写真：グループワークの様子と浜田教授